

【様式1】 平成29年度「岐阜県ふるさと教育表彰」実践報告書

市町村名	岐阜市	学校名	岐阜市立陽南中学校			
校長名	松村 敏幸	対象学年	1・2・3年	人数	542	人
活動名	A総合①「地域防災」 B総合②「安心、安全で楽しい生活」 C国語：「未来の地元創造会議」 D社会：「地方自治と私たち」	時間数	A総合①：30 B総合②：30 C国語：6 D社会：7	時間	継続年数	総合①：1 総合②：1 国語：1 社会：1 年
題材	1 自然環境（山野・河川・動物・植物・その他） [ ] 2 歴史（出来事・史跡・先人・その他） [ ] 3 文化（芸能・芸術・民話・風習・その他） [ ] 4 地場産業（農業・水産業・伝統工芸・その他） [ ] ⑤ 地域との積極的な関わりをつくる活動等[防災・安心、安全な生活、地域創造会議、地方自治] 6 その他（ ） [ ]					
複数年継続するための工夫改善	地域の防災に関わる人々、自治会長、岐阜市企画部交通総合政策課、校区の市議会議員、校区を走るコミュニティバスの運営協議会の方など地域の方から直接話を聞くことで、地域のことを知り、地域の今後の未来や、地方自治の現状や課題などを考えることができた。そこで得たつながりを今後も大切にするので、提案を評価してもらおうなど継続して協力してもらえよう体制をつくる。					
<p><b>1 ねらい</b></p> <p>A 防災について、一つのテーマを班で協同的に追究する活動を通して、様々な視点や、考え方に触れ、新たな課題に気づき、さらに追究を深めることで、防災に関する具体的な行動指針を提案することができる。</p> <p>B 調べ学習や地域の方へのインタビューを通して、学級テーマ「誰もが安心、安全に楽しく生活できるための提案」の達成に向けて、追究を深めたり、地域の方々へ発信したりすることができる。</p> <p>C 十年後も、地域の人々がつながり合い、活動が活発な地域にするために、自分達ができる活動を合意形成の話合いによってつくることができる。</p> <p>D 岐阜市がコミュニティバスを運営していく上での財政面や人材面での課題に対して、課題を追究することを通して、住民と住民、住民と行政のつながりによって、利用者の増加やスポンサーの獲得、後継者の育成などの課題を克服しようとしていることに気づき、これからの持続可能なバスの運営のためには行政だけでなく、住民の参画が大切であることが理解することができる。</p> <p><b>2 活動の概要</b></p> <p>A 防災のことについて調べたり、実際に体験したりすることで、防災の意義や必要性について十分に触れられるようにする。実際に自分たちが、被災者や、ボランティアという立場を想定し、「私たち中学生にもできること」という視点で、万が一の時どうするのかを明らかにする。そして、自分の命を自分で守り、復興を支える地域の一員としての意識をもつ。</p> <p>B 学級テーマ「誰もが安心、安全に楽しく生活できるための提案」を掲げ、「子どもが安心して暮らせるようにする提案」と「岐阜市のよさや楽しさを知ってもらえるようにする提案」をするチームに分かれ、1年かけて追究していく。</p> <p>C ①三里・加納西地区の高齢化や地域行事存続の困難な状況を知り、十年後も元気な陽南地域にするために、自治会長さんに活動を提案する目標を設定する。 ②各班で福祉や交通、環境などの分野を決定し、地域の現況を調査し、提案をつくる。 ③各班の提案を合意形成の話合いによって、よりよい提案にする。</p> <p>D ※資料の中の単元構造図参照</p> <p><b>3 地域住民との関わり、地域社会への貢献の様子</b></p> <p>A 今後は、授業参観で保護者の方に地域の一員としてできることを発信する予定である。</p> <p>B 6月の校外学習では、地域の教育機関や商店にお邪魔させていただき、専門家の方の工夫や取組をインタビューすることができた。</p> <p>C 交通分野を選択した班は、加納めぐりバスの利用状況やルートを調査するため、実際にバスに乗り、乗客にインタビューしたり、バス停から行ける場所の調査をしたりして、地域の方と関わりをもつことができた。</p> <p>D 地方自治に関わる方々に授業の中で直接話を聞くことを通して「私も地域住民の一人として何かできることがあるのではないかな」という意識をもつことができた。今回はコミュニティバスだったが、「官から民へ」の時代から、これからの時代に対応していかなければいけないという意識をもつことができた。</p> <p><b>4 活動を通しての児童生徒の変容</b></p> <p>A 防災への意識が高まり、自分たちが地域のために必要な存在であることを感じたため、より一層地域との絆を深めていきたいという意識をもつことができた。</p> <p>B 例えば「和菓子や岐阜市民に広める」チームでは、和菓子店への取材を通して、和菓子を販売するだけでは効果が薄いので、印象を残すためには、形に残るストラップなどをつくって広めるとよいと、有形物の効果について学習を深め、自身の追究に生かすことができた。</p> <p>C 地域の方に直接お話を伺ったり、地域の交通手段について調べるために、実際に乗車したりすることで、自分達の地域の実態を知ることができ、地域に貢献することの重要性を考え始めるきっかけとすることができた。</p> <p>D 学習の前は「コミュニティバス」の運営を誰が行っているかを知っている生徒はいなかったが、学習を通して「地域住民が運営主体となっている」ということに気付いたことで、「自分達にも何かできることがあるのではないかな」という意識をもつことにつながった。そして、住民の一人として地方自治に参画していくためには、地域で行っていることを知り、地域に住んでいる人々のことを思い浮かべ、大切にすることの重要さに気付けた。</p>						